

今日のキーワード 2014年を振り返るキーワード

「円安・株高」の進行（日本）

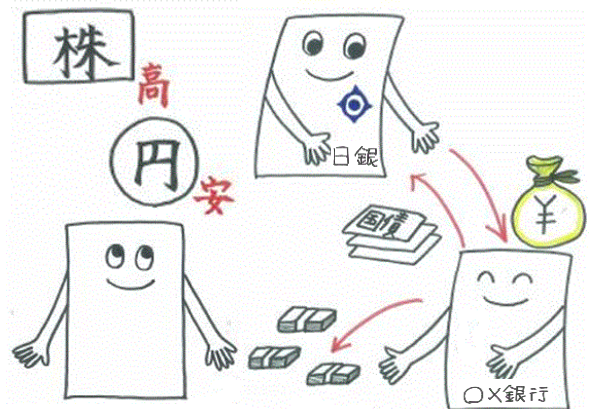
2014年の為替・株式市場は、前半は比較的小さい値動きをしていました。しかし、10月の日銀の質的・量的金融緩和の拡大以降、米ドルに対して円安が加速し、円安を好感して株価が上昇する動きが強まりました。

ポイント1 日銀の質的・量的金融緩和をきっかけに「円安・株高」の流れに 日米の金融政策の方向性の違いが円安進行の背景

- 2014年4月の消費税率引き上げ後の反動は予想外に大きく景気はもたつきませんでした。為替市場では円は米ドルに対しては方向感を欠き、株式市場では年初の水準を下回って株価は推移していました。
- 景気のもたつきを反映した為替・株式市場は、日銀の追加金融緩和により一変しました。米国の量的金融緩和策が終了する時期とも重なり、日米の金融政策の方向性の違いによる金利差拡大の思惑が強まりました。年後半にかけて、為替市場では、米ドルに対する円安が進み、株式市場では、経済の好転期待から、リーマンショック前の水準まで回復しました。

ポイント2 円安は日本経済にプラス 原油安が円安デメリットを緩和

- 円安は、輸出企業には採算改善や輸出拡大、サービス産業には訪日外国人旅行者の増加による消費支出の拡大などの経済効果があります。輸入企業にはコスト増や価格競争力の低下などのマイナスの効果がありますが、日本経済全体としてはプラスの効果を上回るとみられています。
- また、原油などの資源価格の下落が円安のデメリットを和らげたことも、株高につながっています。



今後の展開 「株高」による資産効果で、成長力強化へ

■「円安・株高」の流れは2015年も継続へ

日米の金融政策の方向性の違いから、2015年も米ドルに対する円安傾向が続くとみられます。自動車や電機などの日本の基幹産業の円安効果による業績改善も期待され、株式市場にとっては好環境が続くと見込まれます。

■成長力を強め、「日本売り」回避へ

消費税率引き上げが延期され、財政悪化懸念の高まりや国債の更なる格下げなどが不安材料です。円安と株安が同時進行する「日本売り」につながらないように、株高による資産効果などで消費・投資が拡大し、成長力が強まることが期待されます。

ここも チェック!

2014年12月25日 2014年を振り返るキーワード「消費税率引き上げと再引き上げ延期（日本）」
2014年12月22日 2015年の日本経済の見通し 消費増税の影響を脱却し、景気は持ち直しへ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。